

「星空舞」栽培手帳

(令和6年版)



「星空舞」ブランド化推進協議会

I 水稻品種「星空舞」の特性

「星空舞」は、鳥取県オリジナルの水稻新品種です。

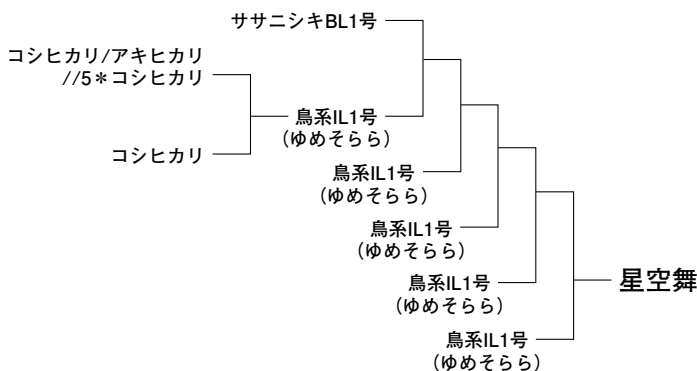
農業試験場では、1986年から「コシヒカリ」の弱点克服に着手し、倒伏しにくく、いもち病に強い性質を付与する目的で育種を続け、着手から32年後の2018年に「星空舞」が誕生しました。

栽培面では、「コシヒカリ」より成熟期が約1週間遅く、高温でも玄米が白濁しにくいことで玄米品質が優れ、倒伏にやや強く、いもち病にかかりにくい特性を持っています。

食味面では、炊飯米の外観において、白度と光沢が強く、粘りが強いながらも、粒感（つぶかん）のある食感が特徴で、「コシヒカリ」とは異なる食味特性を持ちます。また、冷めても含水率が高いため、お弁当やおにぎりへの適性も高いことが分かりました。消費者からは白飯はもちろん、丼モノや焼き肉、カレーにも合うと評判をいただいております。

今後「鳥取県の顔になる良質・良食味品種」として、各方面からの期待が高まっています。

星空舞の来歴



「星空舞」の特性概要

(2019～2023年、農業試験場)

形質	品種名	星空舞	コシヒカリ
出穂期 (月. 日)		8.08	8.03
成熟期 (月. 日)		9.14	9.07
稈長 (cm)		82	92
穂長 (cm)		20.0	20.2
穂数 (本/m ²)		340	309
全重 (kg/a)		150	139
精玄米重 (kg/a)		58.6	57.0
精玄米歩合 (%)		94.8	96.8
玄米千粒重 (g)		22.7	24.1
検査等級 (1等上～規格外)		1等下	3等上
倒伏程度 (0～5)		0.2	1.5
いもち病真性抵抗性		<i>Pik</i>	+
葉いもちほ場抵抗性		やや弱	弱
穂発芽性		やや難	難
高温登熟性		やや強	弱
食味官能		上の中	上の中
障害型耐冷性		強	強

作況試験の5年分のデータを採用。田植日は5月25日

コシヒカリと比較して……

- 成熟期が約7日遅い。
- 稈長がやや短い。
- 高温登熟性に優れる。
- 白濁粒が少なく検査等級が良好。
- やや小粒のためくず米が出やすい。
- 障害型耐冷性は「強」



「星空舞」「コシヒカリ」
株標本



「星空舞」



「コシヒカリ」

玄米の外観

Ⅱ 「星空舞」のくず米低減のための

※くず米を低減する上で大切なポイントは

- 『①幼穂形成期頃（7月中旬）の生育量が過不足なく
 - 『②出穂後の稲体が過栄養とならず、登熟がスムーズ
- これらを達成するためには、次の3点に重点をおいた

1. 地力に応じた適正な基肥量の施用

基肥窒素量 3kg/10a、基肥一発窒素量 6kg/10aを基本とし、地力が高いほ場では施用量を減らします。

2. 適切な中干しの徹底

※ただし、幼穂形成期には入水し、干し過ぎに注意しましょう。
⇒新しい技術内容の土壌硬度やかかと沈下深を参考にしてください。

3. 葉色診断に基づいた穂肥施用

※ただし、穂肥の過剰施用は食味の低下につながるの必ず適正な範囲内での施用としてください。

【分施】穂肥施用基準

区分	施用時期	葉色値 (SPAD)	葉色板	窒素施用量 (10a当たり)
穂肥Ⅰ	幼穂 8～10mm時	35未満	4.0未満	2 kg
		35以上	4.0以上	無施用
穂肥Ⅱ	幼穂 8～10mm時の7～8日後	32以下	3.5以下	2 kg
		32～35	3.5～4.0	1 kg
		35以上	4.0以上	無施用

技術対策

適正であること』
に進む環境を整えること』と考えられました。
管理が必要です。

幼穂形成期の
過繁茂を避ける



過繁茂NG



出穂後の葉色と
総粒数をコントロール



☆千粒重が確保され、
くず米を低減できる☆

Ⅲ 「星空舞」の栽培ポイント

(1) 標高別生育指標

収量、品質、食味目標の達成のため、標高地帯別の技術内容

生育指標を達成するための技術内容

地帯 \ 形質	葉色 (SPAD値)				土壌硬度 (mm)	
	幼穂形成期	穂肥 I 時	出穂期	出穂 20日後	中干終了時	幼穂形成期
平坦地帯 (標高150m未満)	36以下	35以下	36以下	34以下	11mm	3~10mm
中間地帯 (標高150~299m)	38以下	—	35以下	34以下	11mm	1~8mm
山間地帯 (標高300m以上)	33以下	—	37以下	37以下	11mm	2~7mm

注1) かかと沈下深: 長靴をはいた片足にゆっくり体重をかけ、田面が沈んだ深さを示す。面積の小
注2) 中干終了時の土壌硬度・かかと沈下深・亀裂幅は令和4年の農業試験場ほ場の数値



標高地帯別の生育指標

地帯 \ 形質	総粒数 (/m ²)	幼形期茎数 (/m ²)	穂数 (/m ²)
平坦地帯 (標高150m未満)	25,000~29,000粒	290~420本	300~360本
中間地帯 (標高150~299m)	25,000~32,000粒	320~540本	300~410本
山間地帯 (標高300m以上)	25,000~34,000粒	310~540本	290~430本

および生育指標を以下のように改訂しました。

水管理指標値						
かかと沈下深 (cm)			<u>亀裂幅 (mm)</u>			
出穂 20日後	中干 終了時	幼穂 形成期	出穂 20日後	中干 終了時	幼穂 形成期	出穂 20日後
3～6mm	4cm	5～9cm	7～9cm	10mm	3～8mm	3～5mm
4～7mm	4cm	6～10cm	6～8cm	10mm	1～6mm	3～6mm
1～8mm	4cm	6～9cm	6～10cm	10mm	2～6mm	1～6mm

さい範囲の測定になるため、体重による差はほとんどない。

生育指標達成の場合全ての標高地帯でおおむね以下の収量・品質・食味を達成します。

- 
- 精玄米歩合 約92%以上
 - 収 量 約500kg/10a以上
 - 整 粒 率 約70%以上
 - 食 味 値 約75以上

※整粒率はサタケ社製RGQI100Bによる測定値を示す。

(2) ほ場条件

1) 標高

標高500m程度まで作付可能です

※成熟不能のリスクを回避するため、標高400m以上では出穂晩限より前に出穂を迎えるよう、5月上旬までに田植を行うこと。

- ・シミュレーションにより低温年（平年値 -1.4°C ）でも標高500m程度まで作付可能と考えられました。

※【具体例】

☆出穂晩限；日南町茶屋⇒平年：8/17、低温年：8/8

☆出穂晩限までに出穂を迎えるよう、5月上旬頃に田植

※【出穂晩限】とは

☆「出穂晩限」；その地点で正常に登熟が可能と推定される出穂期の晩限

標高300m以上の地点における登熟可能な出穂期の晩限（出穂晩限）の推定

地点名	標高(m)	平年値での推定						低温年(平年値 -1.4°C)の推定					
		出穂晩限	同左成熟期	登熟日数	有効積算気温($^{\circ}\text{C}\cdot\text{H}$)	積算気温($^{\circ}\text{C}\cdot\text{H}$)	平均気温($^{\circ}\text{C}$)	出穂晩限	同左成熟期	登熟日数	有効積算気温($^{\circ}\text{C}\cdot\text{H}$)	積算気温($^{\circ}\text{C}\cdot\text{H}$)	平均気温($^{\circ}\text{C}$)
鳥取市佐治町高山	310	8/24	10/16	53	480	1,010	19.1	8/16	10/8	53	481	1,011	19.1
日南町下石見	342	8/22	10/14	53	483	1,013	19.1	8/14	10/5	52	480	1,000	19.2
智頭町真鹿野	372	8/22	10/13	52	485	1,005	19.3	8/14	10/5	52	484	1,004	19.3
日南町折渡	448	8/18	10/9	52	484	1,004	19.3	8/10	10/2	53	484	1,014	19.1
江府町助沢	466	8/16	10/6	51	492	1,002	19.6	8/9	9/30	52	481	1,001	19.3
日南町茶屋	485	8/17	10/9	53	482	1,012	19.1	8/8	9/29	52	481	1,001	19.3
日南町茶屋*	514	8/16	10/8	53	481	1,011	19.1	8/7	9/29	53	483	1,013	19.1
日南町豊栄	655	8/10	10/1	52	490	1,010	19.4	7/31	9/21	52	488	1,008	19.4

1. 出穂晩限は、各地点のメッシュ気候値を用い、出穂期から成熟期までの有効積算気温 480°C 以上、積算気温 1000°C 以上、かつ平均気温 19°C 以上の条件を満たす晩限の出穂期を示す。
2. *日南町茶屋の現地調査ほ場とは別の地点(514m)におけるメッシュ気候値より推定

2) 前作等

大豆跡・排水不良・高地力・レンゲ跡ほ場を作付可能とします。

※場内および現地ほ場において、大豆跡・排水不良・高地力・レンゲ跡ほ場のデータを取得しました。

⇒レンゲは1トン未満の鋤き込みとします。

⇒レンゲ鋤き込み量、有機質肥料等の活用、堆肥施用については、令和6年度も引き続き検討します。

☆栽植密度や肥培管理の考え方は下表のとおりです。

各区分における栽植密度および肥培管理について

区分	栽植密度 (株/坪)	窒素施用量 (kg/10a)			
		基肥	穂肥 I	穂肥 II	
大豆跡	坪50~60株	無施用	葉色診断 に応じて 基準通りに 施用	無施用	
排水不良		0~2kg		葉色診断に 応じて基準 通りに施用	葉色診断に 応じて基準 通りに施用
高地力					
レンゲ跡		無施用			

① 大豆跡ほ場について

1. 生育量を制御するため基肥は無施用。
2. 栽植密度は50～60株/坪とし、疎植は避ける。
3. 茎数を抑えるため、適正な中干しを実施する。
4. 穂肥Ⅰは葉色診断により基準通りに実施する。
5. 食味値の低下を避けるため、穂肥Ⅱは無施用。

※前年に大豆を作付けした「星空舞」のほ場では、生育量が大きくなりやすく、茎数などで「星空舞」の生育指標を超えて過剰となる傾向にあるものの、**基肥：無施用、穂肥Ⅰ：葉色診断によって施用、穂肥Ⅱ：無施用**とすることで、目標数値以上の食味・品質・収量を確保することができると考えられました。

穂肥Ⅱの窒素施肥量が大豆跡「星空舞」の生育、収量、品質に及ぼす影響（2021～2022年 農業試験場）

調査年次	穂肥Ⅱ窒素施肥量	幼形期茎数(本/m ²)	葉色(SPAD値)		稈長(cm)	穂数(/m ²)	総穂数(/m ² ×100)	精玄米収量(kg/10a)	精玄米歩合(%)	千粒重(g)	整粒率(%)	食味値	倒伏程度(0-4)
			穂肥Ⅰ時期	穂肥Ⅱ時期									
2021	0kg	414	32.8	32.4	86	353	295	527	89.0	22.7	84.5	81	0.8
2022年	1kg	433	33.1	32.9	88	358	292	543	89.7	23.1	84.7	81	1.2
	2kg	433	32.7	32.6	88	355	285	551	88.7	23.2	84.1	76	1.7

注1) 基肥は無施用とし、穂肥はNK化成C-12号を使用し、穂肥Ⅰは幼穂長10mm時の葉色診断により施用量を変え、SPAD値35.0未満：窒素2kg、35.0以上：無施用とした。

注2) 精玄米は、篩目1.85mmのライスグレーダーで調整し、重量値は水分15%換算して示した。

注3) 食味値は、サタケ社製食味計RTCA11Aを使用し、水分15%補正。穀粒判別はサタケ社製RGQI20Aを使用。



大豆跡

② レンゲ跡について

レンゲは1トン未満

※田植20日前には鋤き込む

※レンゲ跡ほ場における「星空舞」栽培において、鋤込みレンゲ生草量が1t/10a未満までは、**基肥を無施用とし、穂肥ⅠⅡを葉色診断通りに施用**することで目標以上の収量・食味・品質を確保することが可能であると考えられました。

レンゲ・基肥量の違いが「星空舞」の生育・収量・品質・食味に与える影響

(令和4年 農業試験場)

区分	幼形期 茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD値)				穂数 (本/ m ²)	総穂数 (百粒 /m ²)	精玄米 重 (kg/10a)	精玄米 歩合 (%)	食味値	整粒率 (%)
		幼穂形 成期	穂肥Ⅰ	穂肥Ⅱ	出穂期						
レンゲ+基肥0kg	458 a	32.0	30.6	32.6	34.1	343	294	571	96.2	82 a	80.0
レンゲ+基肥1kg	440 ab	33.1	32.8	33.6	36.5	349	291	626	96.2	81 a	77.5
レンゲ刈取+基肥3kg	426 b	32.2	32.3	32.4	36.2	332	273	624	96.5	79 b	77.0

注1) 精玄米重は水分15%換算、1.85mmグレーダで調製。

注2) 食味値はサタケ社製RCTA11Aで測定し水分15%補正。整粒率はサタケ社製穀粒判別器 (RGQH100B) による。

注3) 異なるアルファベットはTukey法により、5%水準で有意差あり。

注4) レンゲ生草量約0.9t/10aの条件下で実施した試験結果である。



レンゲ跡※但し1トン未満

③排水不良・高地力ほ場について

○基肥は減量

⇒窒素施用量で0～2kg/10a

○穂肥ⅠⅡは葉色診断により施用

※排水不良ほ場⇒2～3年程度に一度の割合でしか中干しが十分にできない水田

※高地力ほ場⇒コシヒカリを慣行施肥量で栽培した場合、倒伏する水田

※排水不良・高地力ほ場における「星空舞」栽培において、**基肥を窒素施用量で0～2kg/10aとし、穂肥ⅠⅡを葉色診断により基準通りに施用**することで、倒伏を軽減し、収量・食味・品質目標を確保することが可能であると考えられました。

排水不良・高地力ほ場における基肥量の違いが「星空舞」の生育・収量・品質・食味に与える影響

(令和4年 農業試験場)

区分	基肥窒素施用量(kg/10a)	葉色 (SPAD値)			穂数 (本/ m ²)	総穂数 (百粒/ m ²)	精玄米 重 (kg/10a)	精玄米 歩合 (%)	倒伏程度 (0-4)	食味 値	整粒率 (%)
		幼形期 茎数 (本/m ²)	幼穂形 成期	出穂期							
排水不良	0kg/10a	332	31.4	36.1	296	279	542	91.8	1.8	77	69.8
	1kg/10a	326	30.6	35.0	285	229	524	91.8	1.3	77	73.1
高地力 (黒ボク)	0kg/10a	272	31.8	33.9	241	208	493	95.8	0.1	83	78.0
	2kg/10a	368	31.6	34.6	290	213	521	95.3	0.1	82	78.9
	3kg/10a	362	32.0	35.0	298	232	516	95.0	0.1	81	77.4

注1) 精玄米重は水分15%換算、1.85mmグレーダで調製。

注2) 食味値はサタケ社製RCTA11Aで測定し水分15%補正。整粒率はサタケ社製穀粒判別器 (RGQH100B) による。



排水不良・高地力

3) 栽培を避けるほ場

雑草発生が少ない良質なほ場を選定し、日照が不足しがちな谷間や野菜跡などは避けてください。



日照不足



◆有機質肥料等の施用について

地域研究会等で品質食味が良好であることが実証できた場合は作付を可能とします。

レンゲ鋤き込み量、有機質肥料等の施用、堆肥施用については、令和6年度も引き続き検討します。

(3) 田植え時期

平坦～中間地帯の田植え適期は、
5月16日～5月31日です。

※水利慣行による晩植地帯では栽植密度を60株/坪とし、6月上旬までに田植を行うことでくず米の発生を抑制すること

※各標高区分における田植え時期の考え方

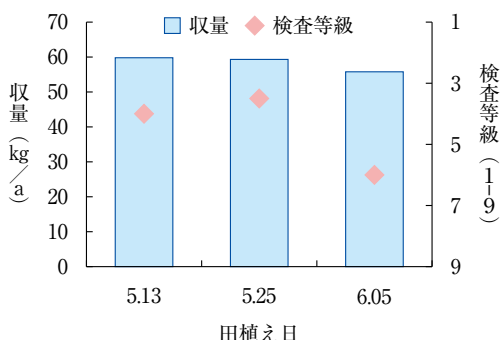
平坦地帯：5月末までに実施（くず米抑制）

※くず米の目安は、5/24田植：8%未満、6/7田植：10%未満。

中間地帯：5月中下旬（幼形期茎数抑制、高品質維持）

山間地帯：5月上旬まで（出穂晩限までに出穂）

※遅い田植え（6月植）でやや低収となり、品質が劣ることがあります。



【田植え時期と収量・品質の関係（2015年農業試験場）】

注）検査等級は：1等（1～3）、2等（4～6）、3等（7～9）



(4) 栽植密度

栽植株数は50～60株/坪です。

※疎植を避け、栽植密度を坪50～60株とすることで生育（茎数・穂数・葉色）が適正に制御されます。

※葉色診断に基づく穂肥Ⅰ施用により精玄米歩合の低下を防ぎ、良品質・食味につながります。

※坪50株未満では、幼穂形成期の葉色の制御が難しく、品質・食味を低下させるおそれがあります。

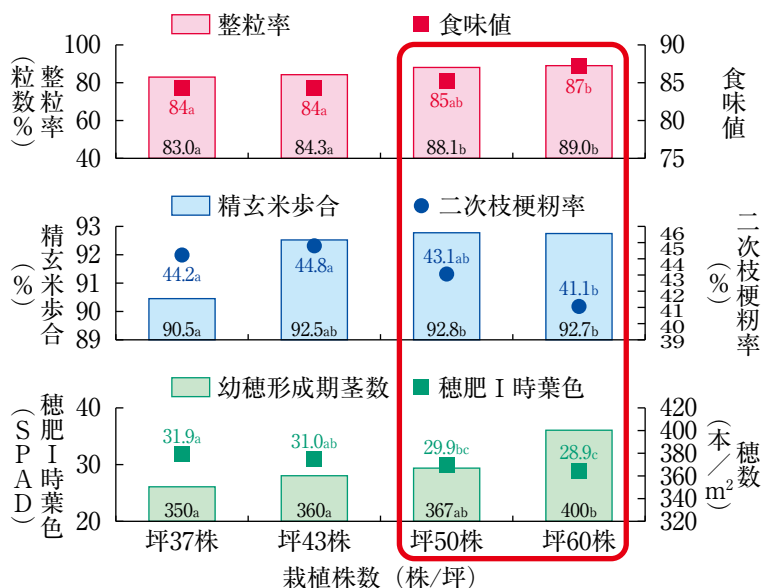


図 「星空舞」における栽植株数による形質の相違
2021年農業試験場

【栽植密度が各形質に及ぼす影響(2021年農業試験場)】

(5) 水管理

中干しを適期に開始し幼穂形成期の土壤硬度を保つことで、品質が向上します。

※中干し開始時期が遅いと生育制御が困難になります。下表を目安に倒伏しやすい・株が咲きやすい場合は早めに中干しを開始しましょう。

【参考】「星空舞」標高別生育指標を達成するための中干し開始茎数

倒れ易い水田

倒れにくい水田

標高地帯区分	目標穂数 (本/㎡)	目標穂数に対する中干し開始茎数(本/株)の割合							
		7割		8割		9割		10割	
		坪50株 株間22cm	坪60株 株間18cm	坪50株 株間22cm	坪60株 株間18cm	坪50株 株間22cm	坪60株 株間18cm	坪50株 株間22cm	坪60株 株間18cm
平坦地帯 (標高150m未満)	300~360	14~17	12~14	16~19	13~16	18~21	15~18	20~24	17~20
中間地帯 (標高150~299m)	300~410	14~19	12~16	16~22	13~18	18~24	15~20	20~27	17~23
山間地帯 (標高300m以上)	290~430	13~20	11~17	15~23	13~19	17~26	14~21	19~28	16~24

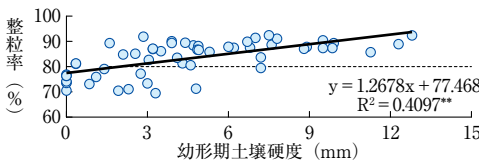
※中干し終了時の土壤硬度は11mm程度(かかと沈下深4cm、亀裂幅10mm)が適切です。

中干終了時の土壤硬度が「星空舞」の生育・収量等に及ぼす影響

中干終了時の 土壤硬度	有効茎歩合 (%)	稈/葉比	一穂穂数	総穂数 (百粒/㎡)	精玄米重 (kg/a)	等級 (1-10)	同左格落ち理由
20mm	78.7*	1.05**	68*	213**	49.6ns	4.0ns	充実不足、基部未熟、胴割れ
11mm	88.2	1.11	80	260	51.5	4.5	未熟

注) 農業試験場における2022年の試験結果。10a当たり窒素施用量3-2-1(基肥-穂肥I-穂肥II、kg)。土壤硬度は山中式土壤硬度計値を示す。**及び*はそれぞれ検定による1%、5%有意差を示す。有効茎歩合は穂数÷幼穂形成期の茎数により算出した。

※平坦部では幼穂形成期の土壤硬度を3~10mmに保つことで、整粒率を81~90%確保できます。



平坦地帯における幼形期土壤硬度と整粒率の関係

(n=63、2020~2022年産) 注) 整粒率はRCQI20Aにより計測

山中式土壤硬度計数値とかかと沈下深との関係

(令和4年 農業試験場)

山中式土壤硬度計数値 (mm)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
かかと沈下深 (cm)	10	9	9	8	7	7	6	6	5	5

注) かかと沈下深: 片方のかかとに静かに全体重をかけた時の田面が沈む深さ

(6) 施肥体系

1) 分施肥体系

① 基肥量について

基肥窒素量は、全ての標高地帯区分で
3 kg/10a

※平坦地帯、中間地帯、山間地帯いずれも基肥窒素量は3 kg/10a基本とします。

※基肥窒素2 kg/10a施用では減収し、基肥窒素4 kg/10a施用では、収量が同等であることから、基肥窒素3 kg/10aが妥当です。

※穂肥は葉色診断により施用してください。穂肥Iを増施しても増収せず、倒伏や食味値の低下を招きます。

※葉色による穂肥窒素量の調節は19ページを参照。

基肥窒素施用量の違いが「星空舞」の生育・収量・品質・食味に与える影響（令和2～3年 農業試験場）

標高	試験区名	葉色 (SPAD値)			穂数 (本/m ²)	精玄米 重 (kg/10a)	精玄米 歩合(%)	食味値	整粒率 (%)
		幼形基数 (本/m ²)	幼穂形 成期	穂肥I 直前					
標高150m 未満	基肥窒素2 kg区	371 a	35.0 a	35.0 ns	357 a	540 ns	89.3 ns	73 ns	86.0 ns
	基肥窒素3 kg区	400 a	35.8 ab	34.7	373 ab	547	90.1	78	84.0
	基肥窒素4 kg区	459 b	36.9 b	35.3	404 b	583	87.8	77	82.3
標高150m 以上	基肥窒素2 kg区	393 a	34.3 ns	31.9 ns	337 a	551 a	93.7 ns	85 ns	88.4 ns
	基肥窒素3 kg区	442 ab	34.6	32.7	372 ab	621 b	94.1	83	88.4
	基肥窒素4 kg区	476 b	34.6	32.8	390 b	626 b	93.3	82	87.5

注1) 穂肥は葉色診断により施肥量を決定したため、試験ほ場によって施用量が異なる。

注2) 重量は水分15%換算。精玄米重、玄米千粒重は1.85mmグレーダで調製。

注3) 玄米タンパク質含有率はサタケ社製RCTA-11Aで測定。

注4) 整粒率は、サタケ社製穀粒判別器RGQI20Aで測定。

注5) 異なるアルファベットはTukey法により、5%水準で有意差あり。

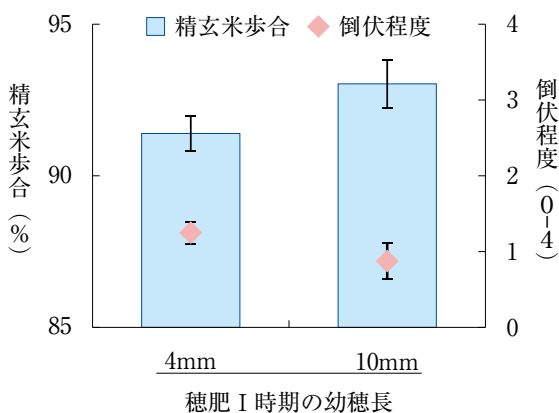
② 穂肥時期について

穂肥Ⅰは幼穂長8～10mm時

穂肥Ⅱは穂肥Ⅰの7～8日後

施肥する時の幼穂長は、
「コシヒカリ」と同じです。

※穂肥Ⅰを早い時期（幼穂長4mm）に施用すると、倒伏を助長して、1.85mmライスグレーダーの歩留まりが低下し、「くず米」が増えることがあります。



【穂肥Ⅰ施用時期と倒伏・精玄米歩合の関係
(2017年農業試験場)】

③ 穂肥量について

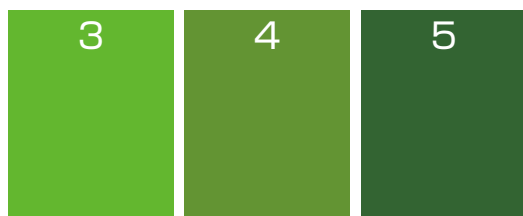
葉色診断により施用量を調節します。

穂肥施用基準

	施用時期	葉色値 (SPAD)	葉色板	窒素施用量 (10アール当たり)
穂肥Ⅰ	幼穂 8～10mm時	35未満	4.0未満	2 kg
		35以上	4.0以上	無施用
穂肥Ⅱ	穂肥Ⅰ時の7～8日後	32以下	3.5以下	2 kg
		32～35	3.5～4.0	1 kg
		35以上	4.0以上	無施用

注) 以上、以下は該当する数値を含み、未満は該当する数値は含まない

葉色（葉色板）の目安



実際の葉色診断には、市販の葉色板を使用すること



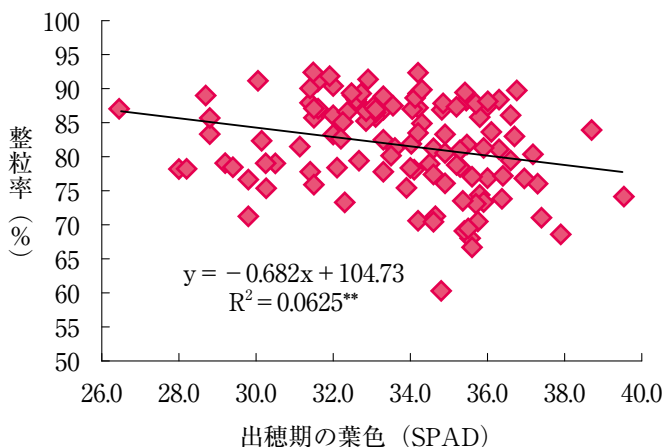
④ 出穂期の葉色について

出穂期の葉色が濃くなり過ぎないように穂肥の量や時期に気を付けましょう

※高い整粒率と食味値の維持のためにも、穂肥時期の葉色診断が必要です。SPAD葉色値35、36、37は葉色板でおおよそ4.0、4.3、4.5です。

生育指標を達成するための技術内容

地帯	形質	葉色 (SPAD値)			
		幼穂形成期	穂肥 I 時	出穂期	出穂20日後
平坦地帯 (標高150m未満)		36以下	35以下	36以下	34以下
中間地帯 (標高150~299m)		38以下	—	35以下	34以下
山間地帯 (標高300m以上)		33以下	—	37以下	37以下



平坦地帯における出穂期葉色と整粒率の関係 (n=124、2018~2022年産)
注) 整粒率はRGQI20Aで計測

穂肥量を守って 出穂期の葉色を適正に♪



2) 基肥一発施肥体系

コシヒカリ用の資材を用い、
施用量は窒素で6 kg/10a

※原則として穂肥は施用しないこと！

葉色が極端に淡い場合 (SPAD32.0以下) の穂肥施用は、
JA・普及所等に相談の上、実施を検討してください。

※早生用の肥料と中生用の肥料を比較すると、早生用の方が
整粒率が高く、玄米タンパク質が低い傾向があります。

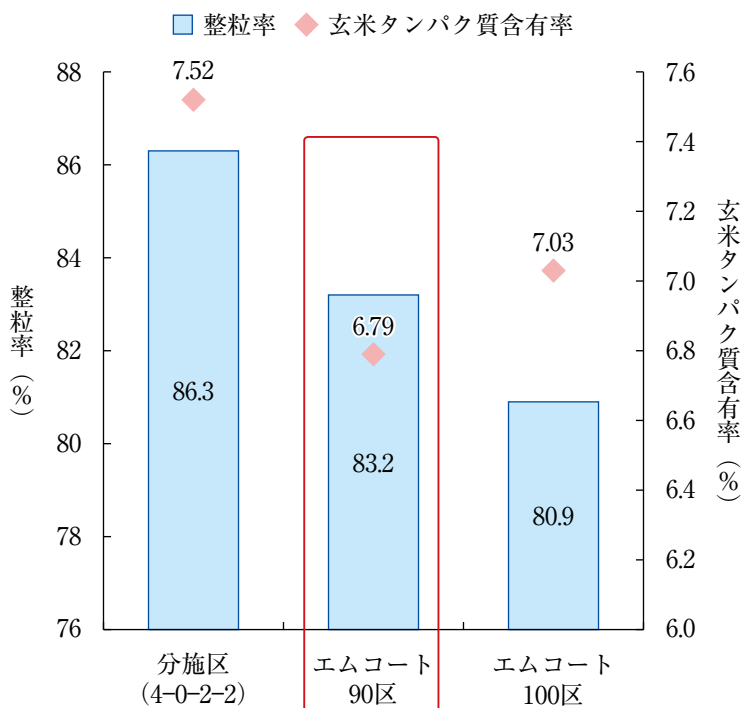


図 玄米タンパク質と整粒率

(7) 刈取適期「全標高地帯」

☆生育指標と統一し、精玄米歩合92%以上、整粒率70%以上の品質を得るための収穫適期を解析しました。

☆年次変動は小さいですが、標高による差が大きいため、下表のように標高300mで区分しました

目指せ
1等!

「星空舞」の収穫適期

標高区分	出穂後日数(日)	出穂後有効積算気温(℃・日)	出穂後積算気温(℃)	青糲率(%)	糲水分(%)	食味値
300m未満	39～50日	620～770℃・日	1,000～1,260℃	0～10%	19～22%	88～89
300m以上	41～55日	510～620℃・日	920～1,170℃	0～12%	23～24%	85～90

注) 2017、2020、2021場内データ、2020、2021現地データ、整粒率は70%以上、精玄米歩合は92%以上を確保

※ただし、晩限付近の刈取は、胴割れ粒の発生や白未熟粒が増加するリスクがあることに留意すること。

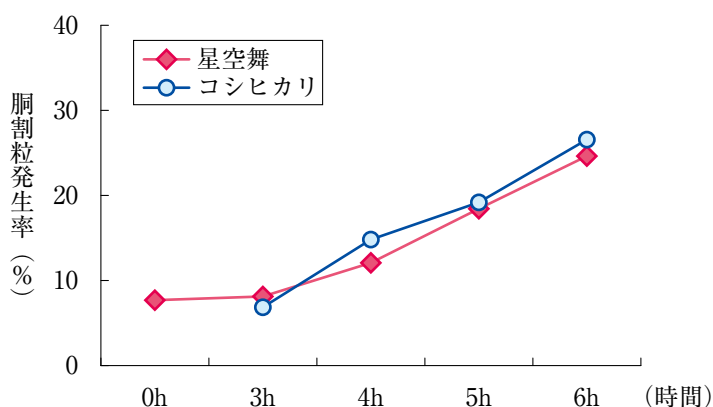
※刈取適期は、標高や出穂期（田植日）で異なるため、農試では、有効積算気温で標高別・出穂期別に刈取適期を予測し、ホームページで事前にお知らせします。

※刈取適期予測はあくまで目安です。実際の刈取計画については、JAまたはお近くの農業改良普及所の指導に従ってください。

※有効積算気温による刈取適期予測の精度が確認できた品種は「星空舞」のみで、他の品種については未確認です。

(8) 乾燥調製

乾燥に伴う胴割粒の発生は、コシヒカリ並です。適正な乾燥方法により良質米生産に努めましょう。



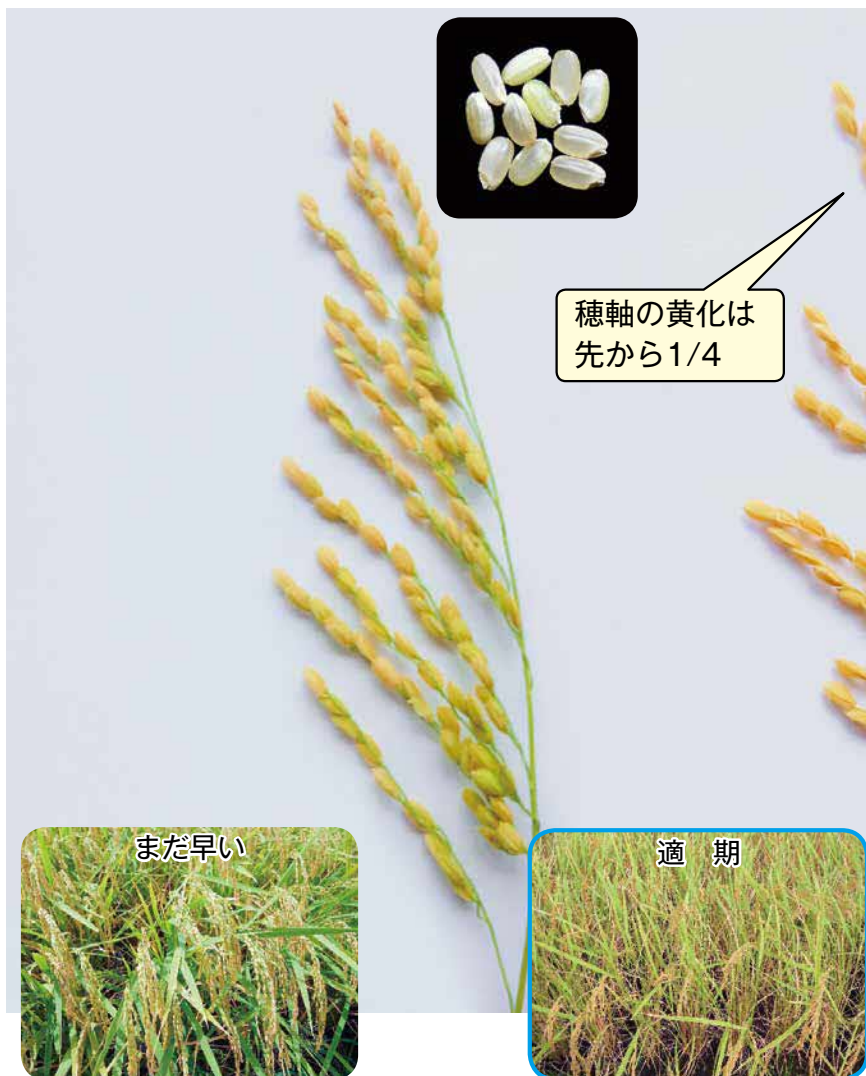
【乾燥時間と胴割粒発生率の関係】

注) 40℃に設定した通風型恒温器を用いて、収穫直後から粳を乾燥させ、0、3、4、5、6時間後に試料を採取、その後、胴割粒発生率を機械で測定した。



令和6年度版 星空舞収穫判

籾色をよく観察して、刈遅



出穂後35日 積算気温900℃

出穂後39~50日 積算気温1,000~

定板【標高300m未満】

れに注意しましょう！



青粳は全体の
10%程度

もう遅い

1,260°C

出穂後55日 積算気温1,350°C

◆令和6年度「星空舞」の栽培暦◆

月 旬		4			5			6	
		上	中	下	上	中	下	上	中
生育 ステ ージ	主 要 作 業	種子予措 浸種			播種			田植え	
		(目安)			5/5			5/25	
作 業 の 内 容		種籾準備 (一〇アール当り三キロ)			種籾消毒 (温湯消毒 六〇℃一〇分) (消毒済み種子を配布)			浸種期間は七〜一〇日を目安、浸種期間はコシヒカリ並	
		種籾準備 (一〇アール当り三キロ)			播種 (播種後、三〇〜三二℃で三日程度加温する) 播種量は催芽一八〇g/箱 (一〇アール当り一八箱を目安とする)			催芽 (ハト胸状態)	
		種籾準備 (一〇アール当り三キロ)			耕うん、基肥散布			代かき	
		種籾準備 (一〇アール当り三キロ)			田植え (坪当り五〇〜六〇株植、一株四〜五本植)			除草剤散布	

◎分施体系での施用基準

◆施肥量の目安

	窒素量(10%当り)
基肥	3.0kg

慣行の時期に施す。

穂肥の葉色診断基準

	施用時期	葉色値 (SPAD)	葉色板	窒素施用量 (10アール当たり)
穂肥Ⅰ	幼穂 8～10mm時	35未満	4.0未満	2 kg
		35以上	4.0以上	無施用
穂肥Ⅱ	穂肥Ⅰ時の7～8日後	32以下	3.5以下	2 kg
		32～35	3.5～4.0	1 kg
		35以上	4.0以上	無施用

注) 以上、以下は該当する数値を含み、未満は該当する数値は含まない

7				8			9		
下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
中干し開始	中干し終了 最高分けつ期	幼穂形成期	※穂肥Ⅰ	※穂肥Ⅱ	穂ばらみ期 出穂期		落水	収穫	
6/25	7/5	7/20	7/24	8/1	8/8			9/17	
中干し開始時期は一六ページの 中干し開始時期は一六ページの 中干し開始時期を参考に決定	中干し（田面に細かい亀裂が入り田面に立って少々沈む程度を目安に必ず行い、終了後は間断灌漑を励行）	穂肥Ⅰ（出穂前十八日頃、幼穂長一〇ミリ程度） ※葉色により量を調節	穂肥Ⅱ（穂肥Ⅰの七〜八日後） ※葉色により量を調節	出穂前防除（穂いもち、紋枯病、ウンカ類等） 穂揃期防除（穂いもち、カメムシ類等）			落水（出穂後三五日間は間断灌漑を行う）	*積算気温一〇〇〇〜一二六〇℃ （標高三〇〇m未満） 出穂後三九〜五〇日	
基肥一発施肥体系では原則として穂肥は施用しない									

※穂肥施用量は葉色診断に基づいて調節する。

◎基肥一発施肥体系での施用基準

コシヒカリ用資材を用い窒素量10アール当たり6kgとする

◆病虫害防除は、各JAのコシヒカリ防除暦に準じ、トビイロウンカについてはきぬむすめ防除暦に準ずる。

☆環境負荷軽減に配慮して、浅水代かき（土が7〜8割見える程度の水量で代かき）を実施しましょう。

併せて側条施肥田植を実施すると、懸濁液や被覆資材の流出防止に一層効果的です。

【栽培履歴】

1. 栽培管理

項目		ほ場地番		
作付け面積（アール）				
育苗	播種日（月．日）			
	一箱播種量（乾・湿、g/箱）			
	播種箱数			
田植	田植日（月．日）			
	育苗箱薬剤名			
	栽植密度（cm×cm）			
	1株植付本数（本）			
	活着状況			
土壌改良資材名及び施用量（kg/10a）				
施肥（肥料名、kg/10a、施肥月．日）		（ . ）	（ . ）	（ . ）
		（ . ）	（ . ）	（ . ）
		（ . ）	（ . ）	（ . ）
		（ . ）	（ . ）	（ . ）
		（ . ）	（ . ）	（ . ）
		（ . ）	（ . ）	（ . ）
病虫害防除（農薬名、散布月．日）		（ . ）	（ . ）	（ . ）
		（ . ）	（ . ）	（ . ）
		（ . ）	（ . ）	（ . ）
		（ . ）	（ . ）	（ . ）
		（ . ）	（ . ）	（ . ）
		（ . ）	（ . ）	（ . ）
		（ . ）	（ . ）	（ . ）
		（ . ）	（ . ）	（ . ）
水管理	中干し期間（月．日～月．日）	～	～	～
	落水時期（月．日）			

【耕種概要】

2. 生育状況及び収量

項目		ほ場地番			
生育	幼穂形成期（月．日）				
	出穂期（月．日）				
	収穫期（月．日）				
	稈長（cm）				
	穂長（cm）				
	穂数（本／株）				
障害（発生程度：無、微、少、中、多、甚）	倒伏				
	葉いもち				
	穂いもち				
	紋枯病				
収量	収穫籾数量				
	玄米出荷量（30kg袋）				
	くず米出荷量（kg）				
品質	1等（30kg袋）				
	2等（30kg袋）				
	3等（30kg袋）				
	検査官のコメント				

「星空舞」ブランド化推進協議会について

令和元年産より本格生産をスタートした「星空舞」が、鳥取県産米の顔となることを目指し、オール鳥取による本県産米のブランド化を進めるため、令和元年5月24日に設立した組織です。

本組織は、星空舞生産者、各JA、JA鳥取県中央会、全農ととり、鳥取県産米改良協会、鳥取県他で構成され、生産および販売の推進に一丸となって取り組むことを目的として、総会をもって方針等を協議することとしています。

令和6年度に向けて

令和5年産の状況を把握し、令和6年産に向けた生産および販売等について取組方針を決定するため、令和5年12月25日に、「星空舞」ブランド化推進協議会総会が開かれました。

総会では、令和5年産生産・販売状況についての報告や、令和6年産販売・生産方針について協議され、令和6年産の栽培指針改訂についても承認されました。

基本技術の徹底に努め、高温障害に強い米づくりに取り組みましょう。

【関係連絡先 一覧】

部署名	電話	ファクシミリ
JA鳥取県中央会 農政営農部	0857-21-2604	0857-37-0052
産米改良協会 事務局	0857-32-8350	0857-30-5070
県庁 生産振興課	0857-26-7280	0857-26-7294
専門技術員 作物担当	090-6848-9045	0857-26-8497
農業試験場	0857-53-0721	0857-53-0723
鳥取農業改良普及所	0857-20-3560	0857-37-1283
八頭農業改良普及所	0858-72-3839	0858-72-3567
倉吉農業改良普及所	0858-23-3192	0858-23-3198
東伯農業改良普及所	0858-52-2125	0858-52-2127
西部農業改良普及所	0859-31-9690	0859-39-0494
西部農業改良普及所大山支所	0859-53-3721	0859-53-3723
日野農業改良普及所	0859-72-2028	0859-72-2090
JA鳥取いなば 営農指導センター	0857-38-8808	0857-28-7270
JA鳥取中央 農産部 水田経営課	0858-23-3025	0858-23-3060
JA鳥取西部 営農部 米穀課	0859-37-5810	0859-34-6900
JA全農とっとり 米穀部	0857-31-4567	0857-28-3050

星空舞ブランド化推進協議会
 (鳥取県、産米改良協会、JA鳥取県中央会)